

学校コード F113310103340

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

届出

注2

東京理科大学大学院

工学研究科

情報工学専攻（博士後期課程）

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人東京理科大学
令和4年5月1日現在

作成担当者

学校法人東京理科大学 総務部総務課

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

工学研究科

＜情報工学専攻（博士後期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	22
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 東京理科大学

(2) 大学名

東京理科大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒125-8585

東京都葛飾区新宿六丁目3番1号

(〒162-8601 東京都新宿区神楽坂一丁目3番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(モトヤマ カズオ) 本山 和夫 (平成27年9月16日)	(ハマモト タカユキ) 浜本 隆之 (令和3年4月1日)	前任者の任期満了に伴う交代 (3)
学長	(マツモト ヨウイチロウ) 松本 洋一郎 (平成30年4月1日)	(オカムラ ソウイチロウ) 岡村 総一郎 (令和3年4月1日)	前任者の辞任に伴い、令和3年4月1日付けで学長事務取扱就任(3)
		(イシカワ マサトシ) 石川 正俊 (令和4年1月1日)	令和4年1月1日付けで学長就任(4)
研究科長	(クラブチ タカシ) 倉淵 隆 (平成30年10月1日)	(コンドウ ユキシゲ) 近藤 行成 (令和2年10月1日)	前任者の任期満了に伴う交代 (3)
専攻主任	(タニグチ ユキノブ) 谷口 行信 (令和2年4月1日)	(アカクラ タカコ) 赤倉 貴子 (令和2年10月1日)	前任者の任期満了に伴う交代 (3)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
工学研究科 情報工学専攻 (博士後期課程) 博士（工学）	工学関係	3 年	3 人	— 人	9 人	新規入学者を募集	基礎となる学部等 工学部情報工学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	3 (-) [-]	人 (-) [-]	3 (-) [-]	人 (-) [-]	3 (-) [-]	人 (-) [-]	0.66倍	-	
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	3 (0) [0]	- (-) [-]	1 (0) [0]	- (-) [-]	2 (0) [0]	- (-) [-]			
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	3 (0) [0]	- (-) [-]	1 (0) [0]	- (-) [-]	2 (0) [0]	- (-) [-]			
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	3 (0) [0]	- (-) [-]	1 (0) [0]	- (-) [-]	2 (0) [0]	- (-) [-]			
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	3 (0) [0]	- (-) [-]	1 (0) [0]	- (-) [-]	2 (0) [0]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	-		-		1.00		0.33		0.66				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してしてください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次					3 [0] (0)	- [-] (-)	1 [0] (0)	- [-] (-)	2 [0] (0)	- [-] (-)	
2年次							3 [0] (0)	- [-] (-)	1 [0] (0)	- [-] (-)	
3年次									3 [0] (0)	- [-] (-)	
4年次											
計					3 [0] (0)		4 [0] (0)		6 [0] (0)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	3 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	4 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	6 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学研究科 情報工学専攻（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	リジエンシャルデザイン・ソフトウェアエンジニアリング	情報工学特別研究 1	1通	6			5	2				
		情報工学特別研究 2	2通	10			5	2				
		情報工学特別研究 3	3通	10			5	2				
	小計 (3科目)	—	26	0	0	5	2	0	0	0	0	
一般教養科目	(教養 (共通))	知財戦略特論	1・2・3 後	2								1
		知的財産特論	1・2・3 後	2								1
		Basic Discussion and Presentation 1	1・2・3 前	2								1
		Basic Discussion and Presentation 2	1・2・3 後	2								1
		Discussion and Presentation 1	1・2・3 前	2								1
		Discussion and Presentation 2	1・2・3 後	2								1
		技術英語表現法概論	1・2・3 前後	2								1
		技術英語表現法演習	1・2・3 前後	2								1
		科学技術研究の倫理	1・2・3 前後	2								1
		国際政治特論	1・2・3 前後	2								1
		生物科学特論	1・2・3 後	2								1
		現代物理学特論	1・2・3 前	2								1
		イノベーション・チーム・ラボ	1・2・3 後	2								4
		ウォーターサイエンス特論	1・2・3 後	2								10
		物理学から見る理学の世界 1	1・2・3 前	1								1
		物理学から見る理学の世界 2	1・2・3 後	1								1
		物理学から見る理学の最前線 1	1・2・3 前	1								1
		物理学から見る理学の最前線 2	1・2・3 後	1								1
		物理学から見る理学の未来 1	1・2・3 前	1								1
		物理学から見る理学の未来 2	1・2・3 後	1								1
		Materials Science and Technology Overview 1	1・2・3 後	2								1
		Materials Science and Technology Overview 2	1・2・3 前	2								1
		Materials Science and Technology Overview 3	1・2・3 前	2								1
		Materials Science and Technology Overview 4	1・2・3 後	2								1
		計算機設計特論	1・2・3 後	2								1
		プロセスアーキテクチャ特論	1・2・3 後	2								1
		キャリアデザイン考究	1・2・3 前	2								2
実践的リーダーシップを学ぶ	1・2・3 前	2								4		
コミュニケーション英語講座 1	1・2・3 前後	1								1		

【令和 4 年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	リジエンシャルデザイン・ソフトウェアエンジニアリング	情報工学特別研究 1	1前	3			6	4				
		情報工学特別研究 2	1後	3			6	4				
		情報工学特別研究 3	2前	5			6	4				
		情報工学特別研究 4	2後	5			6	4				
		情報工学特別研究 5	3前	5			6	4				
		情報工学特別研究 6	3後	5			6	4				
	小計 (6科目)	—	26	0	0	6	4	0	0	0	0	
一般教養科目	(教養 (共通))	知財戦略特論	1・2・3 後	2								1
		知的財産特論	1・2・3 後	2								1
		Basic Discussion and Presentation 1	1・2・3 前	2								1
		Basic Discussion and Presentation 2	1・2・3 後	2								1
		Discussion and Presentation 1	1・2・3 前	2								1
		Discussion and Presentation 2	1・2・3 後	2								1
		技術英語表現法概論	1・2・3 前後	2								1
		技術英語表現法演習	1・2・3 前後	2								1
		科学技術研究の倫理	1・2・3 前後	2								1
		国際政治特論	1・2・3 前後	2								1
		生物科学特論 (未開講)	1・2・3 後	2								0
		現代物理学特論	1・2・3 前	2								1
		イノベーション・チーム・ラボ	1・2・3 後	2								3
		ウォーターサイエンス特論	1・2・3 後	2								3
		物理学から見る理学の世界 1	1・2・3 前	1								1
		物理学から見る理学の世界 2	1・2・3 後	1								1
		物理学から見る理学の最前線 1	1・2・3 前	1								1
		物理学から見る理学の最前線 2	1・2・3 後	1								1
		物理学から見る理学の未来 1	1・2・3 前	1								1
		物理学から見る理学の未来 2	1・2・3 後	1								1
		Materials Science and Technology Overview 1	1・2・3 前	2								1
		Materials Science and Technology Overview 2	1・2・3 前	2								1
		Materials Science and Technology Overview 3	1・2・3 前	2								1
		Materials Science and Technology Overview 4	1・2・3 後	2								1
		計算機設計特論	1・2・3 後	2								1
		プロセスアーキテクチャ特論	1・2・3 後	2								1
		キャリアデザイン考究	1・2・3 前	2								2
実践的リーダーシップを学ぶ	1・2・3 前	2								2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
一般教養科目	コミュニケーション英語講座2	1・2・3前後	1								1	
	英語プレゼンテーション講座	1・2・3前後	1								1	
	英語Writing講座	1・2・3前後	1								1	
	実践英語講座1	1・2・3前後	1								1	
	実践英語講座2	1・2・3前後	1								1	
(教養(共通))												
(教養(他分野))	実践イノベーション	1・2・3前	2								1	
	数値流体工学特論	1・2・3後	2								1	
	経営戦略特論	1・2・3前	2								1	
	小計(37科目)	-	0	62	0	0	0	0	0	0	37	
	合計(40科目)	-	26	62	0	5	2	0	0	0	37	
卒業要件及び履修方法												
次の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 1 専門分野の必修科目26単位及び一般教養科目4単位を含め30単位以上を修得すること。 2 一般教養科目は教養(共通)から2単位以上修得すること。 3 修了所要単位に含めることができる一般教養科目の単位数の上限は4単位とする。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
一般教養科目											
(教養(共通))	科学技術社会特論	1・2・3後		2							1
	倫理学対話	1・2・3前後		2							1
	現代東アジア特論	1・2・3後		2							1
	社会病理特論	1・2・3後		2							1
	表現文化特論	1・2・3前		2							1
	学術英語演習	1・2・3後		2							1
	応用言語学特論	1・2・3前		2							1
	英語圏文学・文化演習	1・2・3前後		2							1
	総合芸術学演習	1・2・3後		2							1
(教養(他分野))	実践イノベーション	1・2・3前		2							1
	数値流体工学特論	1・2・3後		2							1
	経営戦略特論	1・2・3前		2							1
	小計(40科目)	-	0	74	0	0	0	0	0	0	34
	合計(46科目)	-	26	74	0	6	4	0	0	0	34
卒業要件及び履修方法											
次の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 1 専門分野の必修科目26単位及び一般教養科目4単位を含め30単位以上を修得すること。 2 一般教養科目は教養(共通)から2単位以上修得すること。 3 修了所要単位に含めることができる一般教養科目の単位数の上限は4単位とする。											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	情報工学特別研究1	1前	3			8	4					
	情報工学特別研究2	1後	3			8	4					
	情報工学特別研究3	2前	5			8	4					
	情報工学特別研究4	2後	5			8	4					
	情報工学特別研究5	3前	5			8	4					
	情報工学特別研究6	3後	5			8	4					
	小計(6科目)		—	26	0	0	8	4	0	0	0	0
一般教養科目 (教養(共通))	知財戦略特論	1・2・3後		2								1
	知的財産特論	1・2・3後		2								1
	Basic Discussion and Presentation 1	1・2・3前		2								1
	Basic Discussion and Presentation 2	1・2・3後		2								1
	Discussion and Presentation 1	1・2・3前		2								1
	Discussion and Presentation 2	1・2・3後		2								1
	技術英語表現法概論	1・2・3前後		2								1
	技術英語表現法演習	1・2・3前後		2								1
	科学技術研究の倫理	1・2・3前後		2								1
	国際政治特論	1・2・3前後		2								1
	生物科学特論	1・2・3後		2								1
	現代物理学特論	1・2・3前		2								1
	イノベーション・チーム・ラボ	1・2・3後		2								4
	ウォーターサイエンス特論	1・2・3後		2								21
	物理学から見る理学の世界1	1・2・3前		1								1
	物理学から見る理学の世界2	1・2・3後		1								1
	物理学から見る理学の最前線1	1・2・3前		1								1
	物理学から見る理学の最前線2	1・2・3後		1								1
	物理学から見る理学の未来1	1・2・3前		1								1
	物理学から見る理学の未来2	1・2・3後		1								1
	Materials Science and Technology Overview 1	1・2・3後		2								1
Materials Science and Technology Overview 2	1・2・3前		2								1	
Materials Science and Technology Overview 3	1・2・3前		2								1	
Materials Science and Technology Overview 4	1・2・3後		2								1	
計算機設計特論	1・2・3後		2								1	
プロセッサアーキテクチャ特論	1・2・3後		2								1	
キャリアデザイン考究	1・2・3前		2								2	
実践的リーダーシップを学ぶ	1・2・3前		2								4	
コミュニケーション英語講座1	1・2・3前後		1								1	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	情報工学特別研究1	1前	3			7	3					
	情報工学特別研究2	1後	3			7	3					
	情報工学特別研究3	2前	5			7	3					
	情報工学特別研究4	2後	5			7	3					
	情報工学特別研究5	3前	5			7	3					
	情報工学特別研究6	3後	5			7	3					
	小計(6科目)		—	26	0	0	7	3	0	0	0	0
一般教養科目 (教養(共通))	知財戦略特論	1・2・3後		2								1
	知的財産特論	1・2・3後		2								1
	Basic Discussion and Presentation 1	1・2・3前		2								1
	Basic Discussion and Presentation 2	1・2・3後		2								1
	Discussion and Presentation 1	1・2・3前		2								1
	Discussion and Presentation 2	1・2・3後		2								1
	技術英語表現法概論	1・2・3前後		2								1
	技術英語表現法演習	1・2・3前後		2								1
	科学技術研究の倫理	1・2・3前後		2								1
	国際政治特論	1・2・3前後		2								1
	生物科学特論	1・2・3後		2								1
	現代物理学特論	1・2・3前		2								1
	イノベーション・チーム・ラボ	1・2・3後		2								3
	ウォーターサイエンス特論(未開講)	1・2・3後		2								0
	物理学から見る理学の世界1	1・2・3前		1								1
	物理学から見る理学の世界2	1・2・3後		1								1
	物理学から見る理学の最前線1	1・2・3前		1								1
	物理学から見る理学の最前線2	1・2・3後		1								1
	物理学から見る理学の未来1	1・2・3前		1								1
	物理学から見る理学の未来2	1・2・3後		1								1
	Materials Science and Technology Overview 1	1・2・3前		2								1
Materials Science and Technology Overview 2	1・2・3前		2								1	
Materials Science and Technology Overview 3	1・2・3前		2								1	
Materials Science and Technology Overview 4	1・2・3後		2								1	
計算機設計特論	1・2・3後		2								1	
プロセッサアーキテクチャ特論	1・2・3後		2								1	
キャリアデザイン考究	1・2・3前		2								2	
実践的リーダーシップを学ぶ	1・2・3前		2								4	
コミュニケーション英語講座1(未開講)	1・2・3前後		1								0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
一般教養科目	(教養(共通))	コミュニケーション英語講座2	1・2・3前後	1								1
		英語プレゼンテーション講座	1・2・3前後	1								1
		英語Writing講座	1・2・3前後	1								1
		実践英語講座1	1・2・3前後	1								1
		実践英語講座2	1・2・3前後	1								1
	(教養(他分野))	実践イノベーション	1・2・3前	2								1
		数値流体工学特論	1・2・3後	2								1
		経営戦略特論	1・2・3前	2								1
	小計(37科目)	-	0	62	0	0	0	0	0	0	0	47
	合計(43科目)	-	26	62	0	8	4	0	0	0	0	47

卒業要件及び履修方法

次の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。
 1 専門分野の必修科目26単位及び一般教養科目4単位を含め30単位以上を修得すること。
 2 一般教養科目は教養(共通)から2単位以上修得すること。
 3 修了所要単位に含めることができる一般教養科目の単位数の上限は4単位とする。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
一般教養科目	(教養(共通))	コミュニケーション英語講座2(未開講)	1・2・3前後	1								0
		英語プレゼンテーション講座(未開講)	1・2・3前後	1								0
		英語Writing講座(未開講)	1・2・3前後	1								0
		実践英語講座1(未開講)	1・2・3前後	1								0
		実践英語講座2(未開講)	1・2・3前後	1								0
		科学技術社会特論	1・2・3後	2								1
		倫理学対話	1・2・3前後	2								1
		現代東アジア特論	1・2・3後	2								1
		社会病理特論	1・2・3後	2								1
		表現文化特論	1・2・3後	2								1
(教養(他分野))	実践イノベーション	1・2・3前	2								1	
	数値流体工学特論	1・2・3後	2								1	
	経営戦略特論	1・2・3前	2								1	
小計(42科目)	-	0	72	0	0	0	0	0	0	0	30	
合計(48科目)	-	26	72	0	7	3	0	0	0	0	30	

卒業要件及び履修方法

次の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。
 1 専門分野の必修科目26単位及び一般教養科目4単位を含め30単位以上を修得すること。
 2 一般教養科目は教養(共通)から2単位以上修得すること。
 3 修了所要単位に含めることができる一般教養科目の単位数の上限は4単位とする。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・以下の理由により教員配置を変更。
 - * 講師から准教授への昇格
 - * 准教授が研究指導補助教員に昇任したことにより担当教員に追加
 - * 研究指導体制の充実のため、教授を追加
- ・情報工学研究1、2、3をセメスター化したことにより、同科目を1～6に変更。これに伴い単位数を変更。
- ・担当教員の追加等により、ウォーターサイエンス特論の兼任教員の配置を「10」から「21」に変更。

【令和3年度】

- ・情報工学特別研究1～6について、教授1名、准教授1名の退職により、令和2年度の教員配置からそれぞれ1名減となった。なお、届出時の教員配置は、満たしている。
- ・一般教養科目の充実のため、科学技術社会特論、倫理学対話、現代東アジア特論、社会病理特論、表現文化特論を新設。

【令和4年度】

- ・情報工学特別研究1～6について、教授1名退職、准教授1名採用により、令和3年度の教員配置から教授1名減、准教授1名増となった。なお、届出時の教員配置は、満たしている。
- ・一般教養科目の充実のため、学術英語演習、応用言語学特論、英語圏文学・文化演習、総合芸術学演習を新設。
- ・担当教員の変更等により、ウォーターサイエンス特論の兼任教員の配置を「3」に変更。
- ・担当教員の変更等により、実践的リーダーシップを学ぶの兼任教員の配置を「2」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	37 科目	0 科目	40 科目	6 科目 [3]	40 科目 [3]	0 科目 [0]	46 科目 [6]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	生物科学特論	2	1・2・3後	一般	選択	時間割編成上の都合により未開講
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	コミュニケーション英語講座1	1	1・2・3前後	一般	選択	正規科目外の英語プログラムを修了した際に単位認定するための科目で、正規科目外の英語プログラムが廃止となったため、これに付随する形で廃止した。別途英語科目を設けている。
2	コミュニケーション英語講座2	1	1・2・3前後	一般	選択	
3	英語プレゼンテーション講座	1	1・2・3前後	一般	選択	
4	英語Writing講座	1	1・2・3前後	一般	選択	
5	実践英語講座1	1	1・2・3前後	一般	選択	
6	実践英語講座2	1	1・2・3前後	一般	選択	

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ コミュニケーション英語講座1、コミュニケーション英語講座2、英語プレゼンテーション講座、英語Writing講座、実践英語講座1、実践英語講座2は、正規科目外の英語プログラムを修了した際に単位認定する科目で、当該プログラムが廃止となったことに伴い廃止となった。なお、別途設けている英語科目の履修によって、廃止した科目の学修内容を補えるため、支障はないと考える。

・ 未開講科目については選択科目であるため、学生の修了要件に関する支障はないと考える。

・ 未開講となったことは、時間割表において学生に周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{7}{40} = \boxed{17.5}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 【借用地】 ・(葛飾図書館棟敷地) ・面積 5,454.42㎡ ・期間 2023年3月31日まで ・(野田運動場敷地) ・面積 1,391.00㎡ ・期間 2021年9月10日まで 【変更の事由】(2) ・神楽坂9号館8階 ・(大学から収益事業用敷地へ変更) 20.83㎡減少 ・PORTA神楽坂1階 ・(収益事業用敷地から大学へ変更) 11.26㎡増加 【変更の事由】(3) ・神楽坂10号館ANNEX土地購入 396.69㎡増加 ・神楽坂用途変更(大学から収益事業用敷地へ) 11.26㎡減少					
	校舎敷地	369,442.69 ㎡ 369,057.26 ㎡ 369,066.83 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	369,442.69 ㎡ 369,057.26 ㎡ 369,066.83 ㎡						
	運動場用地	401,176.21 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	401,176.21 ㎡						
	小 計	770,618.90 ㎡ 770,233.47 ㎡ 770,243.04 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	770,618.90 ㎡ 770,233.47 ㎡ 770,243.04 ㎡						
	そ の 他	35,130.74 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	35,130.74 ㎡						
	合 計	805,749.64 ㎡ 805,364.21 ㎡ 805,373.78 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	805,749.64 ㎡ 805,364.21 ㎡ 805,373.78 ㎡						
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 【借建物】 ・(神楽坂・富士見校舎) ・面積 7,345.60㎡ ・期間 2036年4月30日まで ・(神楽坂・双葉実業ビル) ・面積 1,308.30㎡(神楽坂) ・期間 2023年5月11日まで ・(神楽坂・12号館) ・面積 331.81㎡(神楽坂) ・期間 2028年3月31日まで ・(神楽坂・10号館別館2) ・面積 291.85㎡ ・期間 2031年6月30日まで 【変更の事由】(2) ・(神楽坂) ・9号館8階 面積減(収益事業用へ) ・PORTA神楽坂1階 面積増(収益事業減少分) ・(野田) ・7号館新築による面積増 【変更の事由】(3) ・(神楽坂) ・神楽坂10号館ANNEX建物購入 615.36㎡増加 ・(野田) ・実験棟新築 4,570.03㎡増加 ・喫煙所新設 11.93㎡増加 ・用途変更 490.08㎡減少 ・(北海道・長万部) ・用途変更 309.38㎡減少 【変更の事由】(4) ・神楽坂10号館別館2 291.85㎡増加 ・用途変更 514.60㎡増加					
		309,557.56 ㎡ 308,751.11 ㎡ 304,353.25 ㎡ 295,459.53 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	309,557.56 ㎡ 308,751.11 ㎡ 304,353.25 ㎡ 295,459.53 ㎡						
(3) 教 室 等	講 義 室	225室 222室 219室 218室	演 習 室	163室 164室 174室 145室	実 験 実 習 室	668室 670室 629室 656室	情 報 処 理 学 習 施 設	13室 22室 6人 7人 11人 (補助職員13人)	語 学 学 習 施 設	2室 (補助職員 0人)	大学全体
	(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数		工学研究科情報工学専攻 10 11 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体			
	工学研究科 情報工学専攻	888,936 [290,304] 920,020 [310,249] 900,624 [307,952] 933,204 [308,254] (933,204 [308,254])	15,693 [13,913] 15,056 [13,244] 18,286 [16,486] 18,292 [16,463] (18,292 [16,463])	9,963 [9,941] 9,301 [9,294] 12,486 [12,479] 12,469 [12,462] (12,469 [12,462])	5,859 5,950 6,158 9,441 (9,441)	10,051 11,611 11,744 (11,744)	0 +				
	計	888,936 [290,304] 920,020 [310,249] 900,624 [307,952] 933,204 [308,254] (933,204 [308,254])	15,693 [13,913] 15,056 [13,244] 18,286 [16,486] 18,292 [16,463] (18,292 [16,463])	9,963 [9,941] 9,301 [9,294] 12,486 [12,479] 12,469 [12,462] (12,469 [12,462])	5,859 5,950 6,158 9,441 (9,441)	10,051 11,611 11,744 (11,744)	0 +				

(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数					
	11,061㎡		2,152 席 2,169 席		719,388 冊 752,441 冊					
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
	10,094.86 ㎡		テニスコート 13面		柔道場 2面					
			野球場 2面		ラグビー場 1面					
			ソフトボール場 3面		サッカー場 2面					
			洋弓場 1面		弓道場 1面					
			剣道場 1面		屋外ゴルフ場 1面					
トラック 2面			多目的グラウンド 1面							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	「教員1人当りの研究費等」の教授、准教授、講師のうち、実験系教員については、「実験系教員」分の単価（100千円）を加算する。(3) 「図書購入費」には、電子ジャーナル、データベースの整備費（運用コスト）を含む。 「教員1人当り研究費等」、「図書購入費」及び「設備購入費」については、令和23年度予算配分額を記載。(2)-(3)-(4) 学生1人当りの納付金は令和23年度入学生に適用する学生納付金を記載。なお、卒業研究費、選択科目実験実習費等は含まない。(2)-(3)-(4)	
		教員1人当り研究費等	教授	500千円	500千円	図書購入費	2,015千円	2,080千円 2,516千円		1,741千円 1,720千円 2,577千円 3,016千円
			准教授	500千円	500千円					
			講師	500千円	500千円					
			助教	400千円	500千円 400千円					
			助手	-	-					
	共同研究費等			設備購入費	3,905千円	3,968千円 4,729千円	3,352千円 2,522千円 4,789千円 5,503千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,000千円	800千円	800千円	-千円	-千円	-千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入により維持運営する。						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	東京理科大学						学生募集停止学科数	2	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
理学部第一部	4	720	-	2,880	学士(理学)	0.96	0.96	-	昭和24	-	
数学科	4	120	-	480	学士(理学)	0.93	0.93	-	昭和24	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地	
物理学科	4	120	-	480	学士(理学)	0.95	0.95	-	昭和24	同上	
化学科	4	120	-	480	学士(理学)	1.00	0.95	-	昭和24	同上	
応用数学科	4	120	-	480	学士(理学)	0.94	0.96	-	昭和36	同上	
応用物理学科	4	120	-	480	学士(理学)	0.98	0.90	-	昭和35	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号	
応用化学科	4	120	-	480	学士(理学)	0.96	1.08	-	昭和34	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地	
理学部第二部	4	360	-	1,440	学士(理学)	0.95	1.00	-	昭和24	-	
数学科	4	120	-	480	学士(理学)	1.00	1.05	-	昭和24	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地	
物理学科	4	120	-	480	学士(理学)	0.91	0.87	-	昭和24	同上	
化学科	4	120	-	480	学士(理学)	0.95	1.08	-	昭和24	同上	
薬学部											
薬学科	6	100	-	600	学士(薬学)	0.96	0.98	-	平成18	千葉県野田市山崎2641番地	
生命創薬科学科	4	100	-	400	学士(薬科学)	0.98	0.99	-	平成18	同上	
工学部	4	550	2年次20	2,260	学士(工学)	0.95	0.98	-	昭和37	-	
建築学科	4	110	2年次20	500	学士(工学)	0.97	0.95	令和2	昭和37	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号	定員変更(20)(建築学科)
工業化学科	4	110	-	440	学士(工学)	0.99	1.00	-	昭和37	同上	
電気工学科	4	110	-	440	学士(工学)	0.92	0.86	-	昭和37	同上	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
経営工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	-	昭和40	同上	平成28年度より 学生募集停止 (経営工学科)
情報工学科	4	110	-	440	学士 (工学)	0.91	1.05	-	平成28	同上	
機械工学科	4	110	-	440	学士 (工学)	0.98	1.05	-	昭和40	同上	
工学部第二部					学士 (工学)	-	-				
経営工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	-	昭和51	東京都葛飾区新 宿6丁目3番1号	平成28年度より 学生募集停止 (経営工学科)
理工学部	4	1,240	-	4,960	学士 (理学) 又は (工学)	0.97	0.93	-	昭和42	-	
数学科	4	120	-	480	学士 (理学)	1.01	1.01	-	昭和42	千葉県野田市山 崎2641番地	
物理学科	4	120	-	480	学士 (理学)	0.93	1.08	-	昭和42	同上	
情報科学科	4	120	-	480	学士 (理学)	0.93	0.92	-	昭和51	同上	
応用生物科学科	4	120	-	480	学士 (理学)	0.94	0.85	-	昭和51	同上	
建築学科	4	120	-	480	学士 (工学)	0.99	0.94	-	昭和42	同上	
先端化学科	4	120	-	480	学士 (工学)	0.94	0.85	-	昭和42	同上	
電気電子情報工学科	4	160	-	640	学士 (工学)	0.95	0.85	-	昭和42	同上	
経営工学科	4	120	-	480	学士 (工学)	0.96	0.95	-	昭和42	同上	
機械工学科	4	120	-	480	学士 (工学)	1.01	1.04	-	昭和42	同上	
土木工学科	4	120	-	480	学士 (工学)	1.00	0.86	-	昭和50	同上	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
先進工学部	4	360	-	1,440	学士 (工学)	0.91	0.93	-	昭和62	-	
電子システム工学科	4	120	-	480	学士 (工学)	0.90	0.99	-	昭和62	東京都葛飾区新 宿6丁目3番1号	
マテリアル創成工学科	4	120	-	480	学士 (工学)	0.94	0.95	-	昭和62	同上	
生命システム工学科	4	120	-	480	学士 (工学)	0.90	0.86	-	昭和62	同上	
経営学部	4	480	-	1,920	学士 (経営学)	0.96	1.01	-	平成5	-	
経営学科	4	180	-	1,000	学士 (経営学)	0.92	0.99	令和3	平成5	東京都新宿区神 楽坂一丁目3番 地	定員変更 (△ 140) (経営学科)
ビジネスエコノミクス学科	4	180	-	680	学士 (経営学)	0.94	1.09	令和3	平成28	同上	定員変更 (20) (ビジネスエコ ノミクス学科)
国際デザイン経営学科	4	120	-	240	学士 (経営学)	1.20	0.92	-	令和3	(1年次) 北海道山越郡長 万部町字富野 102番地1 (2~4年次) 東京都新宿区神 楽坂一丁目3番 地	
大学全体	4	3,810	20	15,300	-	0.95	0.97	-	-	-	
	6	100	-	600	-	0.96	0.98	-	-	-	
合計	-	3,910	20	15,900	-	-	-	-	-	-	
大学の名称	東京理科大学大学院						学生募集停止学科数	2	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	14	備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
理学研究科 (修士課程)	2	290	-	580	修士 (理学) 又は (学術)	1.10	1.18	-	昭和33	-	
数学専攻	2	15	-	30	修士 (理学)	1.43	1.66	-	昭和33	東京都新宿区神 楽坂一丁目3番 地	
物理学専攻	2	50	-	100	修士 (理学)	0.94	0.98	-	昭和33	同上	定員変更 (10) (物理学専攻)
化学専攻	2	120	-	240	修士 (理学)	1.14	1.26	-	平成29	同上	
応用数学専攻	2	25	-	50	修士 (理学)	1.44	1.88	-	平成21		
応用物理学専攻	2	40	-	80	修士 (理学)	1.30	1.30	-	平成21	東京都葛飾区新 宿6丁目3番1号	
科学教育専攻	2	40	-	80	修士 (学術)	0.62	0.45	-	平成29	東京都新宿区神 楽坂一丁目3番 地	

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
(博士後期課程)	3	21	-	63	博士(理学)又は(学術)	1.36	1.71	-	昭和36	-	
数学専攻	3	3	-	9	博士(理学)	1.44	1.66	-	昭和36	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地	
物理学専攻	3	5	-	15	博士(理学)	1.93	2.20	-	昭和36	同上	
化学専攻	3	4	-	12	博士(理学)	1.25	1.50	-	平成29	同上	
応用数学専攻	3	3	-	9	博士(理学)	0.77	0.66	-	平成21	同上	
応用物理学専攻	3	3	-	9	博士(理学)	0.88	1.66	-	平成21	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号	
科学教育専攻	3	3	-	9	博士(理学)又は博士(学術)	1.55	2.33	-	平成29	東京都新宿区神楽坂一丁目3番地	
科学教育研究科											
(博士後期課程)科学教育専攻	3	-	-	-	博士(理学)又は博士(学術)	-	-	-	平成23	同上	平成29年度より学生募集停止(科学教育専攻(博士後期課程))
薬学研究科											
(修士課程)薬科学専攻	2	90	-	180	修士(薬科学)	0.82	0.93	-	平成22	千葉県野田市山崎2641番地	
(博士課程)薬学専攻	4	5	-	20	博士(薬学)	0.75	1.40	-	平成24	同上	
(博士後期課程)薬科学専攻	3	5	-	15	博士(薬科学)	1.80	2.00	-	平成24	同上	
工学研究科											
(修士課程)	2	290	-	580	修士(工学)	0.91	0.76	-	昭和41	-	
建築学専攻	2	50	-	100	修士(工学)	1.02	0.60	-	昭和41	東京都葛飾区新宿6丁目3番1号	
工業化学専攻	2	60	-	120	修士(工学)	1.18	0.93	-	平成29	同上	定員変更(10)(工業化学専攻)
電気工学専攻	2	70	-	140	修士(工学)	0.85	0.80	-	昭和41	同上	
情報工学専攻	2	50	-	100	修士(工学)	0.54	0.60	-	令和2	同上	
機械工学専攻	2	60	-	120	修士(工学)	0.97	0.83	-	昭和58	同上	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
(博士後期課程)	3	17	-	51	博士 (工学)	0.56	0.47	-	昭和58	-	
建築学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	1.44	1.66	-	昭和58	東京都葛飾区新 宿6丁目3番1号	
工業化学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	0.33	0.00	-	平成29	同上	
電気工学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	0.44	0.00	-	昭和58	同上	
経営工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)	-	-	-	昭和60	同上	令和2年度より学 生募集停止 (経営工学専攻 (博士後期課 程))
情報工学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	0.66	0.66	-	令和2	同上	
機械工学専攻	3	5	-	15	博士 (工学)	0.20	0.20	-	昭和60	同上	
理工学研究科											
(修士課程)	2	498	-	976	修士 (理学) 又は (工学)	1.17	1.23	-	昭和47	-	
数学専攻	2	10	-	20	修士 (理学)	2.35	3.40	-	昭和47	千葉県野田市山 崎2641番地	
物理学専攻	2	30	-	60	修士 (理学)	1.11	1.20	-	昭和47	同上	
情報科学専攻	2	40	-	80	修士 (理学)	1.23	1.00	-	昭和55	同上	
応用生物科学専攻	2	60	-	120	修士 (理学)	0.91	0.91	-	昭和55	同上	
建築学専攻	2	60	-	120	修士 (工学)	1.35	1.41	-	昭和47	同上	
先端化学専攻	2	70	-	140	修士 (工学)	1.04	1.08	-	昭和47	同上	
電気工学専攻	2	80	-	140	修士 (工学)	1.43	1.36	-	昭和47	同上	定員変更(20) (電気工学専攻)
経営工学専攻	2	30	-	60	修士 (工学)	1.33	1.70	-	昭和47	同上	
機械工学専攻	2	60	-	120	修士 (工学)	1.20	1.30	-	昭和47	同上	
土木工学専攻	2	30	-	60	修士 (工学)	1.23	1.33	-	昭和54	同上	
国際火災科学専攻	2	28	-	56	修士 (工学)	0.35	0.35	-	平成30	同上	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和4年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度
(博士後期課程)	3	35	-	105	博士 (理学) 又は (工学)	0.75	0.80	-	昭和49	-
数学専攻	3	3	-	9	博士 (理学)	0.22	0.33	-	昭和49	千葉県野田市山 崎2641番地
物理学専攻	3	3	-	9	博士 (理学)	0.77	0.33	-	昭和49	同上
情報科学専攻	3	4	-	12	博士 (理学)	0.33	0.00	-	昭和57	同上
応用生物科学専攻	3	4	-	12	博士 (理学)	0.91	1.25	-	昭和57	同上
建築学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	1.10	0.33	-	昭和49	同上
先端化学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	0.99	1.66	-	昭和49	同上
電気工学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	1.11	1.33	-	昭和49	同上
経営工学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	0.22	0.00	-	昭和49	同上
機械工学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	1.33	2.00	-	昭和49	同上
土木工学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	0.77	0.66	-	昭和54	同上
国際火災科学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	0.55	1.00	-	平成30	同上
先進工学研究科										
(修士課程)	2	150	-	300	修士 (工学)	1.07	1.17	-	平成3	-
電子システム 工学専攻	2	50	-	100	修士 (工学)	0.86	1.06	-	平成3	東京都葛飾区新 宿6丁目3番1号
マテリアル創成 工学専攻	2	50	-	100	修士 (工学)	1.19	1.22	-	平成3	同上
生命システム 工学専攻	2	50	-	100	修士 (工学)	1.18	1.24	-	平成3	同上
(博士後期課程)	3	18	-	54	博士 (工学)	0.14	0.11	-	平成5	-
電子システム 工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.05	0.00	-	平成5	東京都葛飾区新 宿6丁目3番1号
マテリアル創成 工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.10	0.00	-	平成5	同上
生命システム 工学専攻	3	6	-	18	博士 (工学)	0.27	0.33	-	平成5	同上
経営学研究科								-		
(修士課程) 経営学専攻	2	20	-	40	修士 (経営学)	0.75	0.70	-	平成9	東京都新宿区神 楽坂一丁目3番 地
(専門職学位課程) 技術経営専攻	2	80	-	160	技術経 営修士 (専門職)	0.52	0.56	-	平成30	同上
(博士後期課程) 経営学専攻	3	5	-	15	博士 (経営学)	0.33	0.20	-	平成30	同上

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度
生命科学研究科								-		
(修士課程)生命科学専攻	2	15	-	30	修士(理学)	0.99	0.93	-	平成9	千葉県野田市山崎2641番地
(博士後期課程)生命科学専攻	3	5	-	15	博士(理学)	0.86	1.00	-	平成11	同上
大学院全体										
(修士課程)	2	1,353	-	2,686	-	0.97	0.99	-	-	-
(専門職学位課程)	2	80	-	160	-	0.52	0.56	-	-	-
(博士後期課程)	3	106	-	318	-	0.83	0.90	-	-	-
(博士課程)	4	5	-	20	-	0.75	1.40	-	-	-
合計	-	1,544	-	3,184	-	-	-	-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

※ 個人情報が含まれるため非公開（22～30ページ）

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年)	<p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。 (経営学部 国際デザイン経営学科)</p>	<p>本学科設置計画の段階から2名の教員を退職年齢を超えた専任教員として採用することを予定しており、設置計画からの変更はない。また、当該教員2名の就任が開設初年度になっていたこと、及び専任教員の段階的整備により当初の計画どおり順次着任していることから、退職年齢を超える教員が全体に占める割合は昨年度より半減しており、十分に低くなっている。</p>	<p>学科において将来の人事計画を策定しており、完成年度以降の当該教員2名の退職(令和6年度末)に合わせて新規専任教員の採用を行う予定となっている。</p>
	指摘事項 (改善)	履行済	
	<p>入学者選抜の適切な実施等を通じ、入学定員超過の改善に努めること。 (経営学部 国際デザイン経営学科)</p>	<p>令和3年度入学者選抜の結果、本学科の入学者数について、入学定員120名に対し178名が入学することとなり、大幅な入学定員超過となった。入試形態別に見ると、重要視した指定校を対象とした「学校推薦型選抜(指定校制)」の入学者が突出して多い状況となった。 このため、令和4年度入学者選抜の実施にあたっては「学校推薦型選抜(指定校制)」が募集人員に沿った適正な入学者となるよう指定校の見直しを行い、2021年度入試の330校から、2022年度の132校へ削減した。これにより、令和4年度入学者数は、他の入試方式による入学者を含め、入学定員120名に対し111名となった。</p>	<p>これまでの入試の結果を十分に分析し、令和5年度入学者選抜の実施にあたっては、入試方式毎に募集人員に沿った適正な入学者数を確保できるように努め、このことにより、各入試形態からバランス良く多様な人材を確保できるように努める。</p>
	指摘事項 (改善)	履行済	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘**を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学研究科 情報工学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>(FD活動)</p> <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>教育開発センター委員会から各研究科のFD幹事長を通じて本学のFDに関する施策が伝えられる仕組みとなっている。工学研究科情報工学専攻においても、FD幹事を選出し、専攻のFD活動の取りまとめを行うほか、大学院全体としてのFD活動に参画し、授業内容の改善を図っている。また、専攻会議では教育開発センター委員会での審議・検討の結果が報告され、現場の教育活動に反映できる体制が整えられている。</p> <p>また、FD幹事は本研究科の基礎学部である工学部情報工学科のFD幹事も兼ねるとともに、専攻会議も学科会議と一体で運営することで、専攻と学科のFD活動が一貫したものとなるよう配慮している。</p> <p>なお、令和4年には、これまで教育開発センターが実施してきたFD活動を推進するとともに、ICTの活用等デジタル技術を積極的に活用することで教育DXを推進し、効果的・効率的な教育活動による教育の質的転換の実現を図ることを目的として、教育開発センターを発展・改組した新たな組織である教育DX推進センターを設置し、この下で引き続きFD活動が実施されている。</p> <p>東京理科大学教育開発センター規程、東京理科大学教育DX推進センター規程は別紙。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>年に8回程度の割合で開催していく予定である。専攻会議は全専任教員を構成員とする。</p> <p>令和3年度の教育開発センター委員会は10回の開催。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育施策の実施に関すること。 ・教育課程の改善に関すること。 ・その他 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD通信の発行、FDセミナーの実施 ・シラバスの作成・点検・改善 ・大学院における教養教育の推進 ・授業改善のためのアンケート

b 実施方法

教育開発センター委員会で討議した事項について、各研究科のFD幹事会及び専攻会議で報告がなされ、専攻ごとで実施できる体制が整えられている。

c 開催状況

専攻会議は全員参加の体制で月1回ペースで開催を予定。そのうちの多くはFD活動についても取り扱う。令和3年度は11回開催。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育開発センター委員会として、全学的に実施する教育施策については、各専攻のFD幹事会及び専攻会議で報告・検討され、組織的な取り組みを行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学部・学科で実施されている「授業改善のためのアンケート」を大学院では、平成29年度から導入している。

「授業改善のためのアンケート」を通して学生からの意見を聴取し、各研究科・専攻の授業について、学生からの意見をもとに点検・分析を行い、今後の授業改善に取り組むという組織的なPDCAサイクルの確立に取り組む。

「授業改善のためのアンケート」は原則として全科目、年2回実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各授業科目のアンケート結果の学生、教員へのフィードバックは学内ポータルサイトで公開し、更に各学科・専攻のFD幹事にはアンケートの結果を研究科・専攻単位で集計した資料が教育開発センター委員会を通じ公開される。

(SD活動)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

法人における教員人事の方針及び計画等を取り纏める教員人事委員会において、人事の適正化とあわせ、教育職員の能力及び資質の向上を図る施策を検討している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

各学部等における教員人事スケジュールにあわせるかたちで、原則として4月～7月は月1回、9月・10月は月2回、11月・12月は週1回、1月は月2回、2月は月1回で実施している。（3月は状況に応じて開催）

構成員については、大学側からは学長が指名する副学長が出席することとしており、副学長が学科主任等を通じ学部学科の意見・要望を吸い上げると同時に、学部学科に対し、大学としての採用計画を伝えている。

構成員には他に理事長が指名する理事若干名が含まれており、大学と理事会とで一体となった議論を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・教育職員の将来の人事計画に関する事、人事制度に関する事
- ・教育職員の採用、昇任等に関する事
- ・教育職員に関するスタッフ・ディベロップメントに関する事

② 実施状況

a 実施内容

令和3年度には、実験関係の法定研修等に加え、多様化する学内・社会において教職員が様々な人材と関わりあっている際に必要となるヒューマンスキルを向上させる観点から、自身のアンコンシャスバイアス（無意識の偏見）に気づき、個を尊重した適切な考え方について学ぶ「ダイバーシティ&インクルージョン研修」を、令和4年3月に実施した。

あわせて、令和3年7～9月には、教職員のコンプライアンス意識強化の観点から、契約書等の適正性等について前年度に引き続きより詳細に学ぶ「契約に係るコンプライアンス研修（各論編）」を、令和3年12月～翌年1月にかけては、法改正を踏まえつつ、個人情報漏洩の具体的事例等から個人情報に関して遵守すべきことを学ぶ「個人情報保護研修」を、それぞれ実施した。

b 実施方法

実験関係の法定研修については、放射性同位元素、エックス線、高圧ガス等の対象物を扱う教員がeラーニング形式で受講した。

契約に係るコンプライアンス研修、個人情報保護研修についてもeラーニング形式で実施し、教職員の都合にあわせて受講させるかたちとした。

ダイバーシティ&インクルージョン研修については、ヒューマンスキルを伸長させる研修であることを踏まえ講師や他の受講者ともコミュニケーションを取りながら進める双方向性のある研修設計としたが、コロナ禍であることを考慮し、集合形式ではなく、Zoomを使用したオンライン形式での実施とした。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

実験関係の法定研修については、令和3年4月から翌年1月にかけて実施し、当該法規・対象物等に関係するすべての教員が参加した。

全専任教職員を対象として実施した 契約に係るコンプライアンス研修、個人情報保護研修の受講率はそれぞれ54.3%、71.2%となり、特に後者の研修については500名を超える教員が受講した。

ダイバーシティ&インクルージョン研修については、講師や他の受講者との意見交換を行うため人数を絞って実施し、学科主任・専攻主任を中心に各学科・研究科等から選出された1~3名が、事務職員と合同で受講した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

SDのため、授業改善には直接的には関与しない。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

工学研究科情報工学専攻博士後期課程は、情報工学に関連した卓越した専門性、国際性、指導力を身につけ、人類社会の持続的発展に貢献するものづくり、および新たな化学技術の開発を先導することのできる第一線の研究者・技術者の育成を目的としている。

上記の目的を達成するべく、以下の取り組みを行った。

a. 新入生ガイダンス

ガイダンスでは修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」及び「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」について説明の上、カリキュラムや履修方法について説明した。

b. 入学者確保

本学公式HPの入試情報ページ及び募集要項に研究科及び専攻の「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を掲載すると共にポリシーに沿って、一般入学試験、外国人留学生試験及び社会人特別選抜による多様な入学者選抜試験を実施した。

c. 研究指導

学生は1年次「情報工学特別研究1・2」を通して、指導教員との密接な議論と関連分野の文献検索等を通じて、専門分野における自らの研究内容の位置づけや意義等を把握したうえで最終目標を設定し、3年間に亘る研究計画書を作成し、研究計画に沿って自律的な研究活動を開始する。

更に2年若しくは3年の10月にかけて、研究成果の国内外の学会やシンポジウムでの発表を通じて、他の探究者へ自分の実験結果や意見等を的確に伝達し活発に議論する能力を会得する。また学術専門誌への投稿等を通じて専門分野における自らの研究の位置づけや学術的評価等を把握し、最終目標に至るまでの道筋における進捗状況を客観的に認識する。最終目標を達成するために実験技術や解析手法等に改良と工夫を重ね、専門分野における先端的な研究を自立して展開するための独自の実験手法や方法論等を確立する。

② 自己点検・評価報告書

〈東京理科大学全体としての自己点検・評価報告書〉

a 公表（予定）時期

令和2年度の自己点検・評価報告書は令和3年5月19日公表済

令和3年度の自己点検・評価報告書は令和4年6月上旬公表予定

b 公表方法

・自己点検・評価報告書及び（公財）大学基準協会による認証評価結果は、大学ホームページ等にて公表。

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・本学は、令和2年度に（公財）大学基準協会による機関別認証評価を受審し、同協会の定める大学基準に適合していることの認定（期間：令和3年4月1日から令和10年3月31日までの7年間）を受けた。

（経営学研究科技術経営専攻）

・令和3年度に（公財）大学基準協会による経営系専門職大学院認証評価を受審し、同協会の定める経営系専門職大学院基準に適合していることの認定（期間：令和4年4月1日から令和9年3月31日までの5年間）を受けた。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有]

〈aで「有」の場合〉

b 公表（予定）時期 [公表後2～3ヶ月以内]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載]

〈aで公表「無」の場合〉

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

○東京理科大学教育開発センター規程

平成19年10月29日
規程第172号

(趣旨)

第1条 この規程は、東京理科大学教育支援機構規程(平成23年規程第82号)第3条第2項の規定に基づき、東京理科大学教育開発センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、東京理科大学(以下「本学」という。)及び東京理科大学大学院(以下「本学大学院」という。)における教育施策を実施するとともに、教育活動の継続的な改善の推進及び支援を行うことにより、本学及び本学大学院の教育の充実及び高度化に資することを目的とする。

(活動)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)活動の啓発及び支援に関すること。
- (2) 教育施策の実施に関すること。
- (3) 教育課程の改善に関すること。
- (4) その他本学及び本学大学院の教育活動に関すること。

(センター長)

第4条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、東京理科大学教育支援機構長(以下「機構長」という。)の命を受けて、センターに関する事項を掌理する。
- 3 センター長は、本学の学長(以下「学長」という。)が機構長と協議の上選出し、東京理科大学教育研究会議の議を経て決定し、理事長に申し出て、理事長が委嘱する。
- 4 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による任期は、前任者の残任期間とする。

(センター委員会)

第5条 第2条に掲げる目的を達成するため、センター委員会(以下「委員会」という。)を置き、次の事項について審議する。

- (1) センターの活動に関する事項
- (2) センターの予算及び決算に関する事項
- (3) その他センターの運営に関する事項

2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が委嘱する。

- (1) センター長
- (2) 副学部長又はFDを担当する幹事の長のうちから各学部の学部長が指名する者 各1人
- (3) FDを担当する幹事のうちから教養教育研究院長が指名する者 1人
- (4) 生命科学研究科の専攻主任
- (5) 学長が指名した者 若干人
- (6) 学務部長

3 前項第5号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員会の委員長は、センター長をもってこれに充てる。

5 委員会は委員長が招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故のあるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

(意見の聴取)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員会に第2項に定める委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(小委員会の設置)

第7条 委員会に、第3条に規定する活動に係る具体的事項を実施するため、必要に応じて小委員会を置くことができる。

2 小委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(部会)

第8条 委員会に、専門的事項等を調査審議するため、必要に応じて部会を置くことができる。

(事務処理)

第9条 センターに関する事務は、学務部学務課において総括し、及び処理する。

2 学部、大学院及び教養教育研究院のFD活動に関する事務は、別表第1に掲げる部署において処理する。

附 則

1 この規程は、平成19年10月29日から施行し、平成19年10月1日から適用する。

2 東京理科大学教育委員会規程(平成14年規程第97号)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年10月29日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成23年11月10日から施行し、平成23年10月1日から適用する。

2 第7条の規定にかかわらず、この規程の施行日の前日において現に第5条第2項第4号並びに第6条第3項第3号及び第4項第3号に規定する委員である者は、改正後の規定により就任したものとみなし、その任期は、就任時に定められた期間とする。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年8月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年10月23日から施行し、平成27年10月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月27日から施行し、平成28年10月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成29年4月27日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和元年8月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

別表第1(第9条第2項関係)

学部・研究科	担当事務課等
理学部第一部 理学研究科	教務部理学事務課
理学部第二部	教務部理学事務課
薬学部 薬学研究科	野田統括部薬学事務課
工学部 工学研究科	葛飾統括部工学事務課
工学部第二部	葛飾統括部工学事務課
理工学部 理工学研究科	野田統括部理工学事務課
先進工学部 先進工学研究科	葛飾統括部先進工学事務課
経営学部 経営学研究科	教務部経営学事務課及び教務部経営学事務課専門職 大学院室
教養教育研究院	教務部教務課教養教育研究院事務室
生命科学研究科	野田統括部薬学事務課生命研事務室

○東京理科大学教育 DX 推進センター規程

令和 4 年 3 月 16 日
規程第 23 号

(趣旨)

第1条 この規程は、東京理科大学教育支援機構規程(平成23年規程第82号)第3条第2項の規定に基づき、東京理科大学教育DX推進センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において「教育DX」とは、デジタル技術を積極的に活用することで、学生の学修活動及び教員の教育活動に変革をもたらすための諸活動をいう。

(目的)

第3条 センターは、ICTの活用、ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)活動の推進等により、東京理科大学(以下「本学」という。)の学生の学修支援及び教員の教育支援の充実を図るとともに、本学における教育DXの推進により、効果的かつ効率的な教育活動による教育の質的転換の実現を図ることで、本学の学生及び教員の学修・教育活動の変革、一層の深化及び好循環を生み出し、学修者本位の教育を実現することを目的とする。

(活動)

第4条 センターは、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) 学生の学修支援に関すること。
- (2) 教員の教育支援に関すること。
- (3) 教育DXの推進に関すること。
- (4) 教育効果の評価及び新たな教育方法の開発に関すること。
- (5) その他本学の教育活動に関すること。

(センター長)

第5条 センターにセンター長を置く。

- 2 センター長は、東京理科大学教育支援機構長(以下「機構長」という。)の命を受けて、センターに関する事項を掌理する。
- 3 センター長は、本学の学長(以下「学長」という。)が本学の専任又は嘱託(非常勤扱の者を除く。)の教授のうちから機構長と協議の上選出し、東京理科大学教育研究会議の議を経て決定し、理事長に申し出て、理事長が委嘱する。
- 4 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による任期は、前任者の残任期間とする。

(センター委員会)

第6条 第3条に掲げる目的を達成するため、センター委員会(以下「委員会」という。)を置き、次の事項について審議する。

- (1) センターの活動に関する事項
 - (2) センターの予算及び決算に関する事項
 - (3) その他センターの運営に関する事項
- 2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が委嘱する。
- (1) センター長
 - (2) 副学部長又はFDを担当する幹事のうちから各学部の学部長が指名する者 各1人
 - (3) FDを担当する幹事のうちから教養教育研究院長が指名する者 1人
 - (4) 生命科学研究科の専攻主任

- (5) 教育DXの推進に関する知見を有する者として学長が指名した者 若干人
- (6) 学務部長
- 3 前項第5号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員会の委員長は、センター長をもってこれに充てる。
- 5 委員会は委員長が招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故のあるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

(部門)

第7条 センターに、第4条に規定する活動を実施するために、部門を置く。

(部門長)

第8条 前条に規定する部門に、部門長を置く。

- 2 部門長は、センター長の命を受け、当該部門を代表し、その業務を掌理する。
- 3 部門長は、第6条第2項に定める者のうちから、機構長がセンター長と協議の上で指名する。

(分科会)

第9条 委員会に、委員会から付託された事項を処理するために、分科会を置く。

- 2 分科会は、第6条第2項に定める者のうちから、センター長が指名した者をもって組織する。
- 3 分科会に関して必要な事項は、別に定める。

(意見の聴取)

第10条 委員会又は分科会が必要と認めたときは、当該委員会又は分科会における委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(小委員会の設置)

第11条 委員会又は分科会に、第4条に規定する活動に係る具体的事項を実施するため、小委員会を置くことができる。

- 2 小委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(事務処理)

第12条 センターに関する事務は、学務部学務課が統括する。

- 2 センターに関する事務の一部は、学務部学長事務課大学評価・IR室、教務部教務課及び学術情報システム部情報システム課において処理する。
- 3 学部、大学院及び教養教育研究院のFD活動に関する事務は、別表に掲げる部署において処理する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

(廃止規程)

- 2 東京理科大学教育開発センター規程(平成19年規程第172号)は、廃止する。

別表(第12条第3項関係)

学部・研究科	担当事務課等
理学部第一部 理学研究科	教務部理学事務課
理学部第二部	教務部理学事務課理学部二部事務室
薬学部 薬学研究科	野田統括部薬学事務課

工学部 工学研究科	葛飾統括部工学事務課
工学部第二部	葛飾統括部工学事務課
理工学部 理工学研究科	野田統括部理工学事務課
先進工学部 先進工学研究科	葛飾統括部先進工学事務課
経営学部 経営学研究科	教務部経営学事務課及び教務部経営学事務課専門職 大学院室
教養教育研究院	教務部教務課教養教育研究院事務室
生命科学研究科	野田統括部薬学事務課生命研事務室